

アニマルランド NEWS

わんぱーくこうちアニマルランド
№104 Oct 2023



- ・ 夏の企画展2023 「うんち・うんこ展」
- ・ 外来種サンジャク
- ・ サーバルの『バズ』

4月から9月

- 4/2 わんぱくこうちまつり開催
- 4/29 カブトムシ飼い方教室開催
- 5/9 高病原性鳥インフルエンザ対策解除
コールダック、バードハウスの展示再開
- 5/23 ニホンカモシカ「テツ」死亡
- 6/15 サーバル「バズ」来園
- 7/2 ヨーロッパフラミンゴのヒナふ化
- 7/2 カブトムシすもう大会
- 7/17 移動水族館開催
- 7/20～9/5 夏の企画展「うち・うんこ展」開催
- 7/26 ツキノワグマ来園
- 7/31 アニマルランドサマースクール開催
- 8/9 臨時開園
- 8/31 ニホンアナグマ来園
- 9/7～ 動物紹介「知ってる?! ヤイロチョウ」開始
- 9/17 移動動物園開催
- 9/18 敬老イベント開催

わんぱくこうちまつり



わんぱくこうちは今年で30周年になりました

カブトムシ飼い方教室



カブトムシの飼い方について、子どもたちが熱心に話を聞いていました

サーバル「バズ」来園



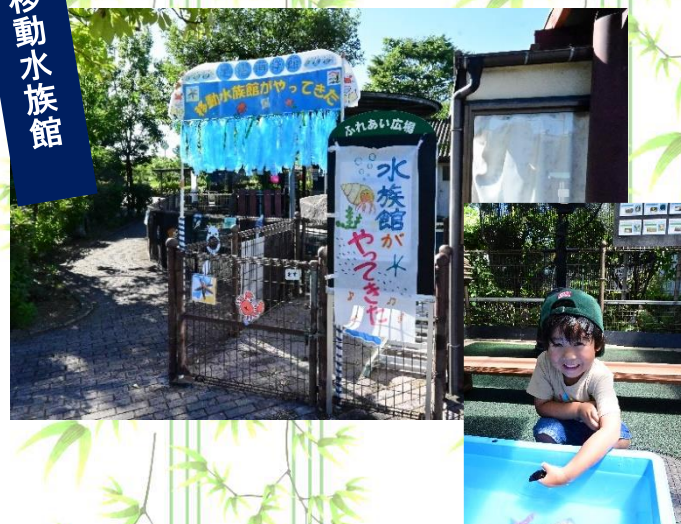
東京都多摩動物公園より来園しました

カブトムシすもう大会



白熱した試合が多く、みなさん熱心に応援していました

移動水族館



足摺海洋館「SATOUMI」との交流イベントで海の生き物とふれあいました

のできごと

ツキノワグマ来園



去年生まれのメスの子グマが
来園しました

サマースクール



エサ作りやふれあい、工作など
みなさん暑い中楽しんでいました

ニホンアナグマ来園



広島市安佐動物公園より
メス2匹が来園しました

動物紹介



ヤイロチョウについて、はく製標本
や巣なども使用し紹介しています

移動動物園



足摺海洋館「SATOUMI」に出張し
大盛況でした

敬老イベント



チンパンジーの「タロー」とツキノワグマの「ワカ」
に敬老のお祝いをしました



夏の企画展2023

「うんち・うんこ展」



7月20日から9月5日まで、アニマルギャラリー特別展示場にて夏の企画展を開催しました。

今年のテーマは「うんち・うんこ展」。

子供も大人も、テレビでキラキラ輝いているアイドルだって、人は皆、うんちをします。それは動物も同じです。「うんち・うんこ」と「生きること」は切っても切れない関係性があります。しかし多くの人にとって「うんち・うんこ」は「臭くて汚いもの」でしかなく、じっくりとうんちを観察したり、うんちについて考えたりすることはしません。

一方、動物の世界においてうんちは重要な役割を持ちます。うんちを使って他の個体の情報を得たり、うんちを食物として利用したり……。また、動物園の飼育員や獣医師、野生動物の調査をする人など、動物に携わる人にとっても、うんち・うんこはとても大切なものです。例えば飼育員は毎日動物達のうんちの状態や量を調べ、飼育している動物たちの日々の健康状態をチェックします。いつもよりべちゃべちゃしている、全然うんちをしていないなどの異常を発見したら、獣医師と相談しながら原因を考えて対処します。野生動物の調査をする人は、自然の中に落ちている動物のうんちなどの痕跡を見つけることで、その動物の食性や行動などの手がかりを得ます。さらに、うんちを詳しく調べることで、動物たちがどのような病気を持っているかの情報や、ストレスや繁殖などの身体の状態を知ることができます。うんちはただの排泄物ではなく、動物たちの情報が詰まった魅力的なアイテムでもあるのです。

生きるために必要不可欠なものであり、魅力もたくさんあるにも関わらず、普段は汚い・臭いと遠ざけられているうんち達。そんな「うんち・うんこ」のことを少しでも知ってもらいたいと今回の企画展を行いました。

企画展の準備を開始してまず初めに気づいたのは、毎日動物たちの世話をしている我々飼育員でも、想像以上に動物のうんちについて知らないということでした。担当動物のうんちの見た目はもちろん知っていますが、担当でない動物のうんちの見た目、うんちに関する習性など、飼育員同士で話していても「えっ！？そうなの！？」と驚くようなことが多くあることが分かりました。うんちの見た目やうんちにまつわる知識の中で、私自身が驚いたことをいくつかご紹介しようと思います。

まずはうんちの見た目について。当園の動物たちのうんちの中で私が特に気に入っているのは、タテガミヤマアラシとグラントシマウマのうんちです。ヤマアラシは、先のとがった楕円形のような形をしています。私はヤマアラシ担当ですが、きれいなものは筆の先のようなつるんとした形をしており、そのようなうんちを見ると「今日もうんちがきれいで健康だ～」とうれしい気持ちになります。余談ですが、ヤマアラシのうんちは割とくさいです。一方のシマウマは、なんとソラマメ型をしています。コロコロとした円形や楕円形のうんちをする動物は多くいますが、なぜシマウマはソラマメ型なのか……ウマとも全く違って不思議で面白いです。

タテガミヤマアラシ



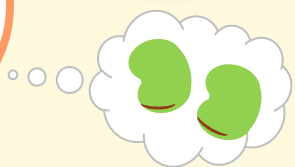
タテガミヤマアラシのうんち



グラントシマウマ



グラントシマウマのうんち



次にうんちにまつわる豆知識です。皆さんは「ためふん（溜糞）」というものを知っていますか？野生動物に詳しい方だと聞いたことがある方も多いのではないかと思います。「ためふん」をする動物として一番有名な動物はタヌキです。タヌキには、同じ場所にうんちをためる習性があり、それを「ためふん」と言います。タヌキはこのためふんを他個体と共有し、ためふんの匂いから他のタヌキの情報をかぎとります。タヌキで有名なためふんですが、実は他にもためふんをする動物がいます。当園で飼育している動物の中では、ホンドタヌキのほかにニホンカモシカなどもためふんをします。ニホンカモシカはなわばりを持つ動物なので、なわばり内の決まった場所にためふんをします。タヌキのように他個体と共有することはありませんが、立派なためふんです。



ホンドタヌキ



いただき
ま〜す

もう一つ、うんちにまつわる豆知識として私が驚いたのは、シマウマのうんちの使い方です。シマウマのような草食動物は、消化しにくい草から効率的に栄養を吸収するため、お腹の中にある腸内細菌が植物のせんいを分解します。この腸内細菌を親から子に渡すために、なんとシマウマの子供は母親のうんちを食べます。うんちを食べるなんて我々人間からすると理解できない行動ですが、シマウマにとっては生きるために大事なことです。うんちの形も習性も、驚きだらけのシマウマですね。

長々と書いてしまいましたが、「うんち・うんこ」の臭い・汚いだけではない面白い一面を知っていただけたでしょうか？動物園は、様々な種類の動物たちを見て、動物たちの姿形や動きなどを観察して楽しむ場所です。アニマルランドにご来園いただいた方々にも、まずは実際の動物たちをじっくり見ていただきたいと思いますが、たまには動物たちの住むスペースを見渡して、うんち・うんこが落ちていないか探してみると新たな発見があるかもしれません。また森の中に行く機会があれば、地面をよく観察してみて、どんな動物たちのうんちがあるか、その動物のうんちにはどんな特徴があるのか調べてみると面白いかもしれません。

(福島志織)

新人獣医師から ごあいさつ



はじめまして！今年度からアニマルランドで勤務しております、福島志織と申します。

大学3年生の時に東京都多摩動物公園での飼育実習に参加してから動物園獣医師を志し、大学で動物園動物の繁殖の研究をしていました。

プライベートでも全国の動物園・水族館を巡ったりと、アニマルランドに来る前から動物園漬けの生活を送っていました。出身は東京、大学は北海道で、高知には縁もゆかりもありませんでしたが、憧れの動物園獣医になるために高知まで来ました。

現在はカモシカ・ヤマアラシ・熱帯鳥類などの飼育を担当しています。飼育ははじめてのことばかりで、動物たちの行動の意味を必死に考え、思い通りにはいかない結果に頭を抱え、動物たち相手に奮闘する日々です。また、大学6年間を涼しい北海道でぬくぬくと過ごした自分は、高知の夏の暑さと湿度の中での力仕事に体力を削られています。

そんなわけで、高知の気候と動物たちに翻弄されてはおりますが、大好きな動物たちのことをもっと理解し、飼育員、そして獣医師として一人前になれるよう、日々勉強を続けていきたいと思っています。

外来種サンジャク



サンジャク *Urocissa erythrorhynchos* は、中国中部・南部からインドシナ半島およびヒマラヤ西部にかけて分布する全長約70cmのカラス科の鳥類で、40cmを超す長い2本の尾が特徴的です。また、頭から胸は黒色で頭頂部から後頸部が白く、体の上面は灰色がかった青色、体の下面は白色で、嘴と脚は朱色をしています。

サンジャクは、愛媛県が設置したリゾート施設（宇和島市）から1999年頃に複数の個体が逃げ出したことが分かっています。そして、四国での野外における最も古い記録は2000年の愛媛県大洲市における1羽で、その後2017年までの記録によると、徐々に件数が増えるとともに確認地点も愛媛県宇和島市、南宇和郡愛南町および高知県宿毛市、四万十市、幡多郡黒潮町、高岡郡四万十町、中土佐町へと拡大していることが報告されています（佐藤ほか、2018）。また同報文には、2015年6月に高知県宿毛市山奈町で幼鳥1羽、2016年4月には高知県四万十市三里で巣立ちビナ2羽が確認されたことも記載されています。現在、サンジャクが日本国内で確認されているのは四国だけとなっています。

近年その分布は拡大傾向にあり、公益社団法人生態系トラスト協会が管理するヤイロチョウ保護区においてもサンジャクの飛来が確認されるようになりました。そこで、同協会ではヤイロチョウなど日本在来の鳥類の繁殖などに影響があると考え、2021年9月から捕獲実験や情報収集などの調査を開始しています。それにより多くの情報が寄せられ、新たに南国市や香南市などでも確認情報が得られ、分布がさらに拡大していることが明らかとなりました。さらに、黒潮町鹿島では成長2羽と幼鳥4羽が一緒に水浴する動画も記録され、繁殖を裏付ける事実も得られています。

また、同協会では捕獲したサンジャクについて食性などの生態調査をするために飼育を行っていました。しかし、会長が体調を崩されたことから、急遽わんぱくこうちアニマルランドで2023年1月30日から2羽の飼育を引き継ぐことになりました。アニマルランドでのDNA検査の結果、2羽とも♂であることが判明したことから繁殖に関する研究はできませんが、野外での生態解明につながるような飼育調査を行っています。鳴き声については、サンジャクの地声はピューイ、ピューイやビビビビビなど鋭く大きな声です。また、他の鳥の鳴きまねも非常に上手で、小鳥のさえずりやトビ、コジュケイのほかヤイロチョウの声まで発することがありました。そして、各種の餌メニューを試したところ、ミルワームや鶏肉・ドックフードなどの動物質だけでなく、ブルーベリー・リンゴ・ミカン・バナナやトマト・小松菜など果物や野菜まで多種多様なものを食べることが分かりました。さらに、換羽時期は8月で、特徴である2本の長い尾羽も8/11と8/13にそれぞれ抜け落ちました。その後、徐々に伸びてきて9/15現在で本来の長さの3/4程度になりました。現在ニホンキジなどがいる鳥類舎で展示していますので、実物を見て知っていただき情報がありましたら、公益社団法人生態系トラスト協会またはアニマルランドまでご連絡をお願いいたします。

（渡部 孝）

引用文献 佐藤重穂・濱田哲暁・谷岡仁. 2018. 四国西南部におけるサンジャクの野生化. Bird Research, (14) : S1-S5.

公益社団法人生態系トラスト協会 四万十ヤイロチョウの森ネイチャーセンター内 電話/FAX 0880-29-4011



野生化したサンジャク
（四万十町2023/5/18）



尾羽が短い状態
（飼育下換羽中2023/8/25）



抜けた長い尾羽
（飼育下8/11,13）

サーバルの『バズ』

たまどうぶつこうえん

2023年6月15日に東京都多摩動物公園からサーバルの『バズ』がアニマルランドにやってきました。当園ではこれまで今年2月に死亡したオスの『シャア』と2018年に死亡したメスの『セイラ』を飼育してきました。そのため『バズ』は3頭目の飼育となります。

たまどうぶつこうえん

『バズ』は2018年11月28日に東京都多摩動物公園で繁殖したオスのサーバルです。バズには『ニール』という名前の双子の兄弟がいます。この2頭の名前の由来は、2頭の兄の名前が『アポロ』だったので、アポロ11号に乗っていた宇宙飛行士の名前を取って『ニール』と『バズ』になったそうです。

そんな『バズ』が当園にきた初日は警戒していました。エサを食べるか不安でしたが、次の日の朝にはエサも完食し、排便も確認できました。東京都多摩動物公園の担当者から事前に聞いた性格のとおり、最強メンタルなサーバルでした。

当園のサーバルのエサは、鶏頭や馬肉を与えています。一方、野生のサーバルは主にネズミなどのげっ歯類や鳥類、ウサギ類などを食べています。この他にもバッタなどの昆虫類やカエルなどの両生類を食べているという報告も出ています。サーバルは単独で狩りを行い、その成功率はライオンよりも高いと言われています。なぜ、狩りが上手なのかというと、サーバルには大きな特徴が2つあるからです。

1つ目は『耳』です。サーバルはライオンやジャガーなどの食肉目ネコ科の中でも比較的大きな耳を持っています。この大きな耳をレーダーのように動かし、土の中にいる獲物の音を聞き分け特定し、狩りを行います。

あし

あし

2つ目は『脚』です。サーバルは体長に対する脚の長さの比率が、ネコ科動物の中で一番大きいです。この脚は跳躍力にも優れており、高さ2m以上、距離3m以上もジャンプすることができます。このジャンプ力のおかげで、飛び立つ鳥類たちを捕らえることができるのです。

『バズ』は以前飼育していたオスの『シャア』よりも目がまん丸く、尻尾が短いのが特徴です。また、『シャア』はあいさつ程度に「シャー」と鳴くのに対し、『バズ』は『シャア』よりは強めに「シャーー！」と鳴きます。やはり、『バズ』はまだ5歳と若いので元気いっぱいな証拠だと思います。

今後もサーバルの『バズ』が過ごしやすい環境を作っていきたいと思います。

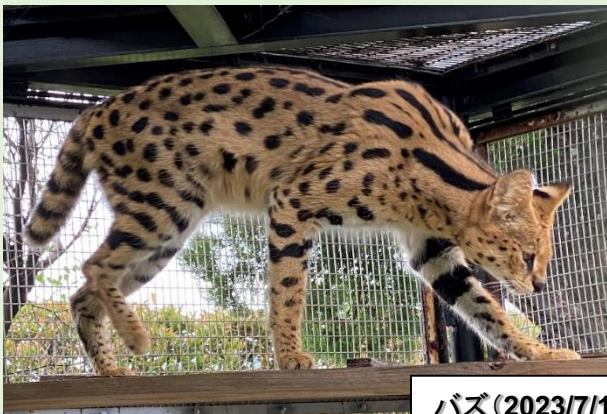
(小松史弥)



バズ(2023/6/8)



在りし日のシャア(2018/1/20)



バズ(2023/7/19)



在りし日のシャア(2022/8/4)

朝晩少し涼しくなってきた9月上旬
ヤイロチョウの動物紹介の前でキャッチ☆

左から

梅原 めいさん(19歳)

安田 拓^{たく}さん(19歳)

佐川町からのご来園です。
梅原さんは小さい時にアニマルランドに
来たことがあり、久しぶりに来てテンション
が上がったそうです。
安田さんはテレビでヤイロチョウが展示
されるのを見て来園されたそうです。



10月から3月のイベントとお知らせ

開催中～12月12日(火)
動物紹介「知ってる?! ヤイロチョウ」

12月10日(日)
いきもの講座

12月14日(木)～1月30日(火)
えと展開催

2月1日(木)～
動物紹介

※年末年始の休園
12月27日～1月1日

1月3(水)、3月27日(水)
臨時開園

1月11日(木)
臨時休園

3月23日(木)～4月2日(日)
わんぱくこうちまつり
(チューリップ展示期間)

日・祝 14:30～
ワンポイントガイド
動物の解説を飼育スタッフがおこないます

中止や延期がある場合があります。
ホームページ、X(Twitter)、園内掲示などで
お知らせします。

ふれあい広場開放時間

2021年4月1日から以下の時間に変更しています。

・10:30～12:00
・13:00～14:30

※ 7月～9月は、動物が暑さで弱ってしまうため
お休みしています

表紙「ヤイロチョウ」

2023年10月1日発行

発行・わんぱくこうちアニマルランド
〒781-8010 高知市棧橋通6-9-1

TEL088-832-0189 FAX088-834-0929

Eメール kc-171204@city.kochi.lg.jp

編集 山本将充 久川智恵美

<http://www.city.kochi.kochi.jp/deeps/17/1712/animal/>
アニマルランドニュース 4,10月の年2回発行
ホームページでも配信中

わんぱくこうちアニマルランド 検索